

ま ち の 話 題

豊岡

とよおか作業所もちつき交流会
ヨイショ、ヨイショ
おいしいもちがつけたかな

2月2日、知的障害者通所授産施設とよおか作業所「郷・とーぷ」、「愛・とーぷ」と豊岡ここのとりライオンズクラブのもちつき交流会が、「愛・とーぷ（上陰）で開催され、両施設利用者やボランティアなど約100人が参加しました。

午前のもちつきでは、参加者が順に「ヨイショ、ヨイショ」の掛け声に合わせてきねを振り、つきあがったもちをきな粉やおろしで味わいました。また、午後からは、職員による獅子舞や豆まき、また、豊岡ここのとりライオンズクラブが寸劇「ねずみの嫁入り」を披露し、交流を深めました。



▲交替しながら順にもちをつく参加者たち

城崎

二人展「ここのとりの写真と切り絵」
さまざまな表情をみせる
コウノトリがズラリ

1月31日から2月26日までの約1カ月間、二人展「ここのとりの写真と切り絵」が城崎文芸館で開催されています。期間中は、今井隆男さん（一日市）と伊賀二郎さん（城崎町湯島）が、コウノトリをテーマにした写真や切り絵など、計54点を展示しました。

今井さんは、愛情を注いで子育てをするつがいや、豊岡の自然の中で生き抜くコウノトリの写真を展示。伊賀さんは、黒色の紙をカッターナイフで切り抜き、色の着いた和紙を重ね合わせて、湿地や夕焼けとコウノトリを表現した作品を展示しました。

入館者は、作品の前で足を止め、心のこもった作品に見入っていました。



▲ズラリと並んだ作品に時間を忘れて見入る入館者

竹野

節分「豆まき」
福豆たくさん拾ったよ

2月5日、竹野子育てセンターでは、節分にちなんで豆まきが行われ、親子24組53人が参加しました。

親子は、最初に画用紙を使って鬼のお面と豆を入れる枀を作りました。子どもたちがお面を着けて楽しんでいると、突然、悪い鬼が現れ、子どもたちは、驚きながらも鬼に向けて大きな声で、鬼は外と豆を投げつけて外に追い払いました。その後、福の神が良い鬼になった鬼と一緒に登場し、福豆をまきました。参加した門野千尋ちゃん（5歳）は「豆まきは楽しかった」と話し、豆まき後は、みんなが豆を食べて、1年の健康を祈りました。



▲福の神と良い鬼になった鬼がまく福豆を拾って喜び子どもたち

まちの情報などがありましたら、秘書広報課広報広聴係まで連絡ください。



▲校庭に積まれた雪山に登り雪遊びを楽しむ児童たち

日高

西宮市へ雪のプレゼント

今年も届けたよ！ 神鍋の雪に大喜び

1月24日、西宮市立平木小学校に、神鍋高原から11トントラック2台分の雪が贈られました。この事業は、日高文化体育館の竣工記念演奏会に、西宮市吹奏楽団が出演したことを機に、豊岡の自然を体感してもらおうと市が行ってきましたが、今年度は、豊岡市日高文化協会が中心となり、日高地域の文化・経済団体の協力を受け、継続実施されました。校庭に雪が降るされると、子どもたちは雪に駆け寄り、ミニ雪だるまを作ったり、雪合戦をして楽しみました。1年生の宮内杏実ちゃんは、冷たかったけれど、雪だるまが作れて楽しかった」と満面の笑顔で話していました。

出石

人権の大切さを今一度

こころをつなぐ市民集会



▲自身の教育経験を例に挙げながら講演する仲島さん

2月2日、人権について考える場として、こころをつなぐ市民集会を、出石文化会館ひまわりホールで開催しました。
人権作文の朗読発表では、喜多亮介くん（弘道小5年）が、「周りの人を思いやり、支え合っていけるよう心がけます」、鈴木拓資さん（出石中1年）が、「自分らしく生きていく心を育てていきます」と力強く発表し、人権の大切さを強調しました。続いて、教育サポーターの仲島正教さんが、「あーよかったな あなたがいて『優しさ』という温かい貯金」と題した講演を行い、集まった人々は人権の大切さ、共に生きることの素晴らしさについて、思いをめぐらせていました。

但東

チョコレートを使ったお菓子作り

愛情たっぷり おいしくなあれ

2月9日、バレンタインデーを前にチョコレートを使ったお菓子作りが合橋地区公民館で行われ、子どもや大人11人が参加しました。初めに板のチョコレートを手で割り、湯せんで溶かし、そこにバター・卵・砂糖・小麦粉を加えてオーブンで焼いた「チョコマフィン」を、次に生クリームとチョコレートを混ぜ合わせた「ムース・オ・シヨコラ」を作りました。参加した二位和希さん（合橋小6年）は、「チョコを混ぜるのが大変でした。作ったお菓子は家族みんなで食べます」と話し、愛情を込めて作ったバレンタインチョコのお菓子を渡す日が待ち遠しそうでした。



▲愛情を込めてバレンタインチョコのお菓子を作る参加者たち